一日教育委員会（教育懇談会）意見交換記録

□日　時　　平成２８年9月7日（水）　１３：３０～１５：３０
□場　所　　富士吉田市民会館
□出席者　　１０３名
（内訳）ＰＴＡ関係者　　７９名
市町村教育委員会関係者　　２１名
一般　　３名

１　教員の多忙化解消について

（質問・意見）

・教職員の多忙化対策について、児童生徒の健全育成や地域や保護者に信用信頼される教育の実現のためには、世界でも一位と言われる教職員の多忙化対策は大変重要と考えている。
そこで教育委員会としての多忙化対策について、教えて欲しい。

→守屋教育長

・多忙化については、もちろん教員の健康の問題もあるが、一義的には子どもと直接向き合う時間を確保したいというのが目標。
例えば会議や研修などで、教員が子どもとの直接的な時間がどうも足りなくなっている。あるいは両方実現するためには教員が平日であれば放課後、それから土曜日、日曜日の私生活を制限して時間をとらざるを得ない。それはクラブ活動も含めての話にもなる。そのために県では、まず県立学校でどういうことができるか、ワーキンググループを立ち上げ検討を行っている。会議や研修などの実施方法の見直しや、次から次へといろんな課題が積み重なっている中で、その必要性や優先度を整理し、効率化を図っていこうと取り組んでいる。
・市町村の教育委員会でも様々な取り組みを行っているが、県立学校での取り組み例を示し、同じような取り組みができるようにと考えている。
特に小学校、中学校の先生は県の教育センターで研修や会議を行っているが、市町村の教育委員会や学校でも同じようなことをしているかもしれない。似たようなことをやっているのであれば廃止してしまうなど、思い切った対策も念頭に踏まえて検討していく必要もあるかと思っている。
・併せて校務、授業以外の教員が持っている業務をどう減らすか、クラブ活動をどうフォローしていくかということも含め、検討を進めているところ。

→学力向上対策監

・教員の多忙化解消を担当しているが、今教育長から説明したとおり、教育委員会内では各課の代表によるワーキングを一昨年度より開催しており、各学校へのアンケートを実施し多忙化の実態や改善策についての共有を図ったところ。それを受け、昨年度は教育委員会で主催している会議、研修及びアンケート調査等について５パーセント程度だが削減をした。今年度も引き続きワーキングを継続し、小中学校、高校の校長先生の代表にも参加してもらい意見を聴いている。
・加えて教育センターではＥラーニングというインターネットを通じた研修により、研修に掛かる負担を軽減する取り組みも行っている。

・今年度、学校訪問を通じて校長から多忙化に向けた取り組みを聞いたり、取り組み例を紹介したりしている。また市町村の教育長会議でも県での取り組みを理解してもらい、来年度に向け県と市町村教育委員会が同じ方向を向いて、多忙化改善に取り組んでいけるよう考えている。

→野田教育委員

・私どもも小学校、中学校に出向き、先生の話を聞いている。その中に、国、県、市町村から同じようなアンケートがくるという話を聞く。中学の先生だったらクラブ活動の面倒見なければいけないし、翌日の授業の準備もしなければいけないという中では、とても時間が足りないとおっしゃっていた。
・私達教育委員で話をしていることは、重複しているアンケートや研修等は一括にできないのかと。そうしていかないと、先生が学習指導とか生徒指導という、本来やるべき仕事に向かえない、また、エネルギーがなくなってしまうのではないかと。
・しかし、逆に私は先生方のほうにも問題があると感じている。何でも１００パーセント一生懸命やってしまう。手抜きをしろとは言わないが、まあこれはこのぐらいまででいいんじゃないかというようなこともあると思う。その辺をうまく学校全体で連携を図りながらやっていったら、少しは今よりも先生の仕事が楽になって、学習指導、生徒指導のほうに力が入れられるのではないかと思っている。私達も教育委員会の中で委員なりの提言をしたいと思っている。

→和田教育委員

・先ほど事務局からワーキンググループを立ち上げ、各方面からの意見を聴いているという説明をしたが、発言をされた方が中学校の先生なので、中学校では部活の問題もかなり先生方の負担になっているということを聞く。他県では、外部の指導者にお願いすることで教材研究する時間が取れたとか、子どもと話す時間ができたという話も聞いている。部活の問題についてお考えがあったら、ぜひ県の教育委員会のほうに届けていただけたらと思う。その辺も考えていきたいと思っている。

（質問・意見）

・先生方の多忙化とは何をもって多忙化なのか、何故遅くまで、忙しいのか。

→学力向上対策監

・多忙化については小中高で要因が異なるが、例えば中学校や高校だと部活動の指導後に職員室で自分が抱えている事務や教材研究など授業に関わる準備を行っている。また、最近では保護者への対応等も放課後になってからでないと連絡が取れない場合や、必要に応じ面談なども行ったりするなどの業務がある。また、高校では、これらに加え、大学受験等に向けた個別指導といったものも放課後の時間に行っている事例もある。

２　中高一貫校の取り組みについて

（質問・意見）

・中高一貫教育校のパイロットスクール候補校についてはなぜその学校が選ばれたのか、また、この結果というのはいつ、どこで、開示されるのかということを教えて欲しい。

→新しい学校づくり推進室長

・中高一貫教育のパイロット候補校については、今、身延中学、南部中学、身延高校で研究を進めている。なぜここがパイロット候補校になったのかと言うと、今高校は全県一学区制となっており、どこの高校に行くかは生徒の自由となっている。上野原高校とか、身延高校、北杜高校といった県境に位置している学校は、地元の中学からの進学率が非常に高い状況にある。中高一貫教育の連係型ということで実施をしていることから、その連携がとりやすい状況にあるということが、身延高校と身延中、南部中を先進例として選んだ理由。具体的にやっている事業例としては、身延高校の教員が南部中、身延中に行って英語と数学の授業のアシストをしたり、逆に中学校の教員が身延高校に行って高校の授業をアシストしたり、また、中学生と高校生が一緒にバスケットホールやソフトテニスなど合同で部活動を行ったり、清掃活動ということも連携事業として取り組んでいる。

・この試行を始めてから今年で３年目になる。そろそろ今後どうしていくのかという方針を出したいということで、町としての考え方を南部町、身延町等に対してまとめてもらっているところ。それらも含めて今後について検討していくことになるが、いつ公表できるかはまだはっきりと決まっていない。

３　青少年の育成と地域コミュニティについて

（質問・意見）

・大月市の青少年育成推進員連絡協議会の役員をやらせてもらっている。大月市は中学校が二つになってしまったが、地域社会、コミュニティの形成に関し、小学校、中学校の子どもたちについては何となく関わっていくことができる。しかし都留高等学校の場合には全県一区ということで、どのように関わっていったらいいのかということをちょっと疑問に思っている。今年の８月に上野原市の青少年育成の皆様方と一緒に子ども交流会というのを「ゆずりはら青少年の家」で開催した。上野原高校の生徒は参加してくれたが、都留高校は参加できなかった。その時に私どもはどのように関わっていけばいいのかと思った。

→白川教育委員

・私なりの答えになるが、実を言うと私も大月出身で、中学校と高校の将来についてすごく心配、懸念をしている。それは５年後とか１０年後。少子化がどんどん進んで、合併が進んでいった地域であり、学校の教育の話以前に、町全体がどうなっていくのかという不安がある。地域だとかここにいるＰＴＡの皆さんとかが一体となって、教育をどうするのか、中学校と高校をどういうふうに考える、町づくりをどう考えるのかという議論をすべきじゃないかなと思う。そんな仕組みというか、建設的な会話ができる場をぜひ地元で働きかけてもらえればと思う。私も出身者として協力したいと思っている。ぜひいい町にしていきたいと思っている。

（質問・意見）

・今お話いただいた教員委員さんのお言葉どおり。私たち社会教育に関わる者は、小学生、中学生の場合には地域における育成会活動だとか、その他諸々の活動で関わることができるが、高校になると育成会からも外れてしまう。そうすると私たち地域の者がそういう子どもさん方にどう関わったらいいのかと。やっぱり地域を支えるのは地域の人だと思う。人と人との繋がりがより緊密になっていくところで子どもたちにいい影響を与えていくのではないかと私は思っている。そういう意味でちょっと遠回しの質問になってしまったが、今お言葉を聞き、大変心強く思った。

４　やまびこ支援学校の移転問題について

（質問・意見）

・私達は、大月市のやまびこ支援学校のＰＴＡの学校検討委員会に所属している。
今日はやまびこ支援学校の移転の問題について現状を知ってもらいたい。やまびこ支援学校は山間地、百蔵山（ももくらやま）の麓にあり、大自然の中で子どもたちが本当に生き生きと活動している素晴らしい学校。しかしなんと言っても築３７年と老朽化が進んでおり、本年度は残念ながら子どもたちがプールに入ることができなかった。民間等のプールの利用も、山間地のため車を持っていないと行けなかったり、１時間半や２時間ぐらい掛かってしまうのでなかなか利用は難しい。ルールを理解するのが難しい子どもたちにとっては、スポーツの幅が狭まれてしまって、プールに入れないというのは本当に大きな悲しい出来事だった。

・また、９月に入って台風が来たが、学校が休校になった。市内の学校は通常どおりだった。やまびこ支援学校では雪が降ると１００パーセントと言っていいほど学校が休校になる。百蔵山の麓にあり最大傾斜が２５度もあるため、スクールバスが上がることができないからでる。保護者は、普通学級や支援学級に通っている子どもたちは学校に行っているのに、やまびこ支援学校の子たちはどうして休みなんだと、本当にどうしていったらいいのか分からない状況だった。
先輩の保護者からきちんと言葉で表さないと分かってもらえないのではないかという助言で、３年前に学校検討委員会を立ち上げ、２年ほど時間を掛けて話し合って、昨年度教育委員会の協力を得て、やまびこ支援学校の移転に関する要望書を提出した。
私たちは直面している実態を伝えることしかできないが、本当に子どもたちの十分な教育とか、安全な教育がされるよう、ぜひ今後も見守っていってもらいたい。

（質問・意見）

・ちょっと長くなるが、私の子どもは肢体不自由で知的の重複もある。車いすを自分で動かせるようになっても、中々練習する場所がなく、また、移動もすごく大変で、中学３年の女の子なので女性の先生が付いてくれるが、すごく負担が掛かっている状況。

・あと、やまびこ支援学校は土砂災害警戒区域に入っているので、台風がちょっと来てもやまびこだけは休校。教育に力を入れてもらっているが、それ以前にやはり学校に行けないと教育は受けられない。そういう面でも学校に一日でも多く行けることを願っている。
知的の子で自主通学ができるお子さんもいるが、バス停や駅からすごく遠い。山の上なので、スポーツ活動も親の迎えがないとだめだとか、限られた教育しか受けられないので、ぜひ、一日も早い移転先を見つけて欲しいと思っている。

→守屋教育長

・保護者の方々には、大変ご不便、ご不安を生じさ、大変申し訳ない。
今お話にあったように、やまびこ支援学校は本当に古い学校の一つ。それから手狭、さらに体の不自由な児童生徒がいる中、傾斜地に造ってあるためそれぞれの校舎間の移動も大変だという話も承知している。
保護者の方々のご意見を聞くと、今設置されている大月に立て直すのが一番というご意見も伺っており、私どももそれを最優先に考えて、今検討を進めているところ。

・これについては、知事も大変心配をしており、とにかくスピードを上げてやるようにという指示を受けている。山梨県の教育の課題の最優先事項の一つとして承知している。この前も地元の大月市長とも協議をしたところである。現在、最終的な場所の選定作業に入っているところであるが、今この場では具体的なお話しをすることはできない。一刻も早くいい施設ができるようにと取り組んでいる所なので、ぜひとももうしばらく、推移を見守っていただきたい。

→新しい学校づくり推進室長

・学校からも保護者の方がどうなっているのか非常に関心が高いため、一度学校に来て説明してもらいたい旨の申出を受けているので、説明する機会を設けたいと考えている。

→学校施設課長

・プールについて、ご不便を掛けてしまい本当に申し訳ない。水回りの故障ということで今年は迷惑をかけたが、私どもも予算が潤沢にあるわけではないが、何とか工夫して対処していきたいと考えている。

5　放課後子ども総合プラン推進事業について

（質問・意見）

・放課後子ども総合プラン推進事業について、放課後や週末等に子どもたちが地域社会の中で安全に、安心して健やかに育まれる居場所づくりを整備するとありますが、これは具体的にどんなものか。

→社会教育課長

・県では平成２７年度から、山梨県放課後子ども総合プラン推進事業として、放課後の子どもたちの安心、安全な居場所づくりを進めている。
総合プランの中で、社会教育課では放課後子ども教室推進事業という事業を進めている。これは、週末や放課後に地域の方々の協力を得て、子どもたちと共に勉強やスポーツ、文化活動、それから地域の方々との交流活動などを行なうという事業であり、今年度については県下１７市町村、６８教室で実施している。
・もう一つ、こちらは子育て支援課で担当しているが、学童と呼ばれている事業で、こちらのほうが歴史も古いことがあり、県内でも多くの所で実施している。
・放課後子ども総合プランは、いわゆる学童の部分と放課後子供教室の部分を一体として進めるというもの。学童についてもこれまでは小学校３年生までだった対象を小学校６年生までに拡大しているが、学童では共働きでなければならないなどの条件があるため、全てのお子さんを受け入れられるようと放課後子供教室という事業を推進している。

6　学校の統廃合について

（質問・意見）

・今年度河口湖町から西浜中学が消え、勝山中に統合された。少子化で子どもの数が少なくなって、ある程度学校の統廃合は仕方がないことだと思うが、統廃合されることのメリット、デメリットを教育委員会ではどう考えているのか。またそれに対してどのような取り組みをしているのか教えて欲しい。

→義務教育課長

・県内の統廃合はここのところ非常に進んでおり、ここ１０年でおよそ５０校ぐらいの小中学校が統廃合されている。小中学校は市町村が設置主体であり、市町村の計画により統廃合は進められている。当然市町村でも地域の方の意見を聞いたり、地域の思いを汲む中で進めているものと理解している。統廃合については国のほうで、通学でいうと小学校が４キロ、中学校では６キロぐらいを目安にという基準を出しており、平成２７年には、１時間ぐらいの時間であれば統廃合の対象にとの基準も示されたところ。ただし、国の基準は、目安であり、小規模校の特色を生かしながら存続することも可能となっている。
小規模校の特色を活かしながら存続していくところや、大規模校のメリットを考慮し統廃合を行うところなど、市町村が総合的に判断し統廃合を進めている。県では、市町村からの相談にのったり、情報提供を行ったりと市町村の支援を行っている。

（質問・意見）

・大月市のほうでは統廃合がかなり進んでいるということだが、統廃合によって距離が遠くなりバスで移動ということになると、子どもたちにとってはすごくハードルが上がると思うが、そういうことで学校に来られなくなる子はいないのか。

→義務教育課長

・統廃合によって通学距離が長くなることは当然あるが、市町村がそれぞれスクールバスや路線バスを活用しながら登校している。統廃合による通学困難により学校に行けなくなったという報告はこれまで受けていない。

７　部活動について

（質問・意見）

・私は、ガールスカウトの活動をしている。ガールスカウトは幼稚園から大人までが活動をしている社会教育団体であり、特に体験活動を通して生きる力を育み、社会に役立つ女性を育てるというのが大きなテーマとなっている。幼稚園の子どもたちから徐々に段階を追って体験学習をしていく中で効果が得られると信じて活動しているが、中学では部活動、それから高校生に至っては受験勉強の中で活動ができなくなってしまっている。部活動とガールスカウトの活動を両立させられるようにと、子どもたちが来やすいようにと夜７時から９時半に集会活動をするなどして、何とか活動が続けられるようにしているが、夜、室内の中だけでは体験活動を通した効果が得られない。
そういうことで、ぜひお願いだが、本当は土曜日、日曜日は地域に子どもたちを返して欲しいと思っているが、それが無理ならば、月に２回の土曜、日曜は子どもたちを地域に返してもらえないか。すると大人までの活動がずっと繋がっていって、いい人育てができると私たちは自信を持っている。
そういう部分で部活動との兼ね合いということを、県のほうではどのように考えているのかお聞きしたい。

→スポーツ健康課長

・部活動は必ずやりなさいよ、やらなきゃだめだというものではなく、任意のものであるが、手元にきちんとした数字がないが、男女合わせて中学校だと大体７割ぐらいが部活動に加入している。女子は男子に比べて部活動をやっている子は少ないとはいえ、部活動とガールスカウトの活動がバッティン

グしてしまうことはあろうかと思う。
県では、教員の多忙化解消というところとも絡んでくるが、週に一度、土日のいずれかは、休みにしましょうということで、小中学校の教育委員会を通じて指導している。昨年アンケートを実施したが、土曜日に部活をやっている学校は多いが、日曜日に部活を行っているという回答は多くはなかった。県では週末一日は必ず休みにして下さいと指導をしていて、中学では一定程度指導に沿った対応となっている。

→武者教育委員

・私は婦人科医、内科医であるが、私の医院にも学生が受診しに来ている。話を聞くと中学になると、部活が忙しく休みがない。高校は勉強や課題等で年末年始しか休みがないような状況。それで成果が挙がっているのかと聞くと返事に詰まってしまう。保護者も先生の一部にもそんな思いがあるようである。では、何故続けているんだろうと疑問に思うことが多々ある。少しずつ改善していければと思っているところ。

８　スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置について

（質問・意見）

・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーは困っているお子さん、あるいは子育てに悩んでいる保護者の方にとって、大変ありがたい存在。また学校現場でも担任等、悩んでいる担任にとっては的確なアドバイスをもらえている。今後もぜひ配置を継続するとともに、できれば時間的に増やしてもらいたい。

→義務教育課長

・スクールカウンセラーは臨床心理士の方が各学校を回って、生徒、保護者、それから先生方の相談に対応するもの。今、心の悩みを抱える子どもが非常に多い中で、どこの学校でも配置を増やして欲しいとか、時間を拡大して欲しいとの要望がたくさんある。
今スクールカウンセラーは、県内に中学校が８０校あるが、全ての学校に配置している。配置と言っても毎日行っているわけではなく、週一回程度、規模によってもその時間数は異なるが学校を訪問している。中学校は全校配置となっているが、小学校は今年度では５３校と全体の三分の一程度の配置になっている。
・それからスクールソーシャルワーカーは社会福祉士の資格を持った人が何か学校の中で抱えきれない問題があった時に、他の関係機関との連携やコーディネーター役として、課題解決をしていくというもの。
スクールソーシャルワーカーは、全県で今１３名を配置している。配置は学校にではなく、小中学校においては各教育事務所に、高校においては総合教育センターに配置し、学校からの要請に対し、訪問をして話し合い等に参加したり、関係機関とのコーディネートを行ったりと支援活動を行っている。昨年度の実績では県全体で２，３００件程度の対応をしている。
・教育委員会としても毎年配置が拡大されるよう努めているところ。また、機会を捉え、国等への要望も行っているところ。

９　教員研修について

（質問・意見）

・系統的な教員研修とは具体的にどのようなことをしているのか。

→義務教育課長

・教員は最も若い採用で２２歳から始まり、定年は６０歳。また、職場も学級担任、学年主任、教務主任、管理職とさまざまである。若い人は初任研として基礎的な研修を、中堅の教員には中堅教員としての研修を、管理職は管理職に必要な研修をと年齢や職に合わせた研修を行う必要があり、このことを系統的な研修として位置づけている。